

上毛かるたの継承、偉人の業績発掘

群馬の魅力子どもにも

郷土への理解を深め、愛郷心をはぐくむ視点から、松本基志県議は上毛かるたの継承と、本県にゆかりの偉人の業績を子どもに伝える活動について質問しました。

松本県議は「上毛かるたは本県の大切な文化であり、今後も継承されなければならない」として、「たとえ、小栗上野介らの業績を掘り起こすべ



県議会一般質問で上毛かるたの意義と継承を呼びかける松本県議（上）高崎市倉沢町権田の東善寺境内にたえずむ小栗上野介の石像の前で村上泰賢住職と（左）

野介らの業績を掘り起こすべきと思うが」と質問。地域創生部長は「小栗公の墓所、東善寺住職は公園や遺品の展示をしている。新田義貞が拳兵の際に鎌倉に向けて矢を放った故事から地元では鎬矢祭が毎年行われている。こうした地域の活動が偉人の顕彰につながる」と力を込めました。

その上で、「地域から声が上がった顕彰活動は、県としても応援していく」と前向きな姿勢を示しました。

「い」と「ら」への思い議場で一連の質問に関連して、松本県議は「い」と「ら」の札を議場で示し、2枚の読み札の、バックがピンクの意味を問い掛けました。

いろいろ言葉の一番目の「い」は分かりやすいなか、「ら」について、松本県議は「業績を伝えたい小栗上野介、高山彦九郎、国定忠治らが連合軍総司令部（GHQ）の指令によつて上毛かるたに読み込めず、『雷』『空風』『義理』『人情』で代替している」と語り、上毛かるたの一端に込められた製作者らの深い配慮に思いを寄せました。

子どもアドボカシーも質問

令和6年4月施行の改正児童福祉法で充実する「子どもアドボカシー」について、松本県議は県の取り組みを質問。生活子ども部長は「県は中央児童相談所で試験的に一時保護中のこどもの意見聴取などを行っている」と先行事例を紹介。社会的に養護が必要なこどもの声を聴き、意見表明を支援するアドボカシーに関して「今後も必要な取り組みを検討する」と答えました。

「学校」から「地域」へ

部活動の充実目指して

小中学校のクラブ活動が変革期を迎え、校内の活動から各市町村の実情に応じた地域連携や地域移行への取り組みが始まっています。松本基志県議は11月の県議会第3回後期定例会の一般質問で、県教育長に「学校部活動の地域移行の現状」と県スポーツ局長に「地域移行に必要な受け皿づくり」をそれぞれ尋ねました。

「やりたい」で人生豊かに！地域の「得意」も大切です。

松本県議と小出さんは旧知の仲。県議は「部活動の地域移行は避けて通れない。根本的な原因をどうとらえているのか」とあらためて確認。小出さんは「小中学生の人数が県内各地で激減しており、野球をはじめ集団競技のチームが学校単位では作れない」と問題の根本を語ります。

松本県議は「部活動の地域移行は避けて通れない。根本的な原因をどうとらえているのか」とあらためて確認。小出さんは「小中学生の人数が県内各地で激減しており、野球をはじめ集団競技のチームが学校単位では作れない」と問題の根本を語ります。

松本もとし



学校部活動の地域移行について意見を交わす松本県議（左）と小出さん。高崎の「高いポテンシャルを生かしたい」と熱く語りあう

部活動の学校から地域への移行は一生涯、運動を続けられる基盤につながります。小出さんは「地域移行の大切なポイント」と強調します。

動を充実できるよう取り組みたい」と答弁。スポーツ局長は「スポーツ少年団、民間事業者、大学などさまざまな団体が受け皿となると想定される。指導者を登録する人材バンク設立の準備も進めている」と語りました。